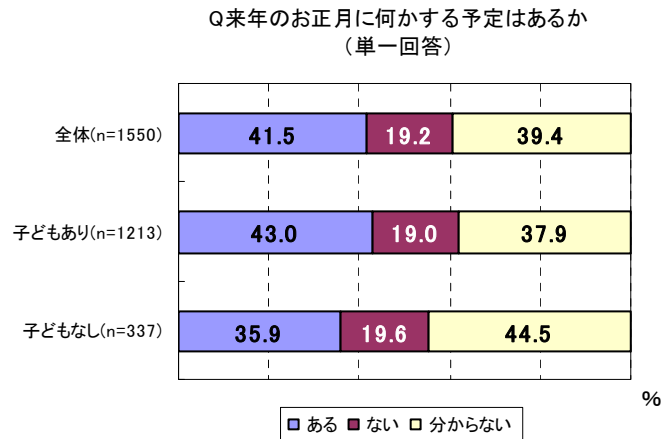


お正月の風習～当世事情

●お正月に何らかの予定が「ある」人は、全体の4割強

「来年のお正月に何かする予定はありますか？」との質問には、「ある」が全体の4割強（41.5%）で、「ない」が2割弱（19.2%）だった。また、「分からない」と回答した人が4割弱（39.4%）いた。

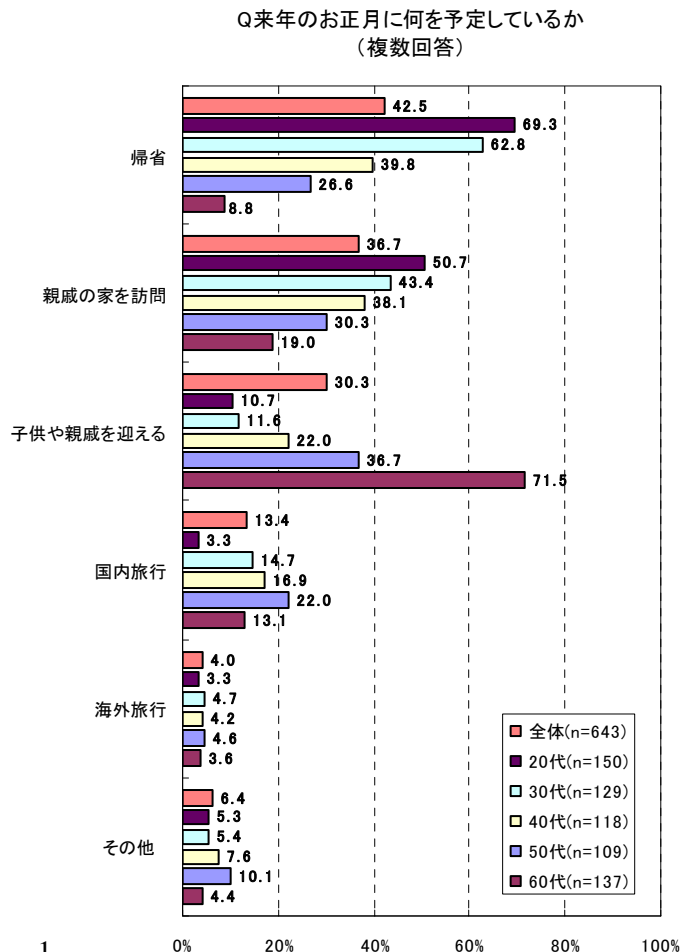
予定をしている人たちと子どもの有無の関係について調べてみたところ、子どもがいる人たちのうち43.0%が「予定がある」と回答しており、子どもがいない人たち（35.9%）を7.1ポイント上回った。



●予定のトップは「帰省」、若い世代を50代以上が迎える

お正月に何かする予定があるという人たちに何をするか訊いたところ、「帰省」42.5%、「親戚の家を訪問」36.7%、「子供や親戚を迎える」30.3%がトップ3で、以下「国内旅行」13.4%、「海外旅行」4.0%と続いた。その他（6.4%）の中には「ライブを見に行く（51歳）」、「出産」、「サッカー天皇杯観戦」といった回答もあった。

この予定について年代別に調べてみたところ、20～40代は「帰省」（20代69.3%/30代62.8%/40代39.8%）をトップに挙げたが、50代以上は「子どもや親戚を迎える」（50代36.7%/60代71.5%）がトップ。帰省する20～40代を50代以上が迎えるという構



図が浮かび上がった。

また、居住形態別の内訳では、集合住宅に住む人たちは「帰省」55.5%をトップに挙げたが、「子どもや親戚を迎える」は16.6%。一方、一戸建てに住む人たちは「子どもや親戚を迎える」42.4%をトップに挙げ、「帰省」は31.0%。帰省する集合住宅組を一戸建て組が迎えるという図式が浮かんだ。

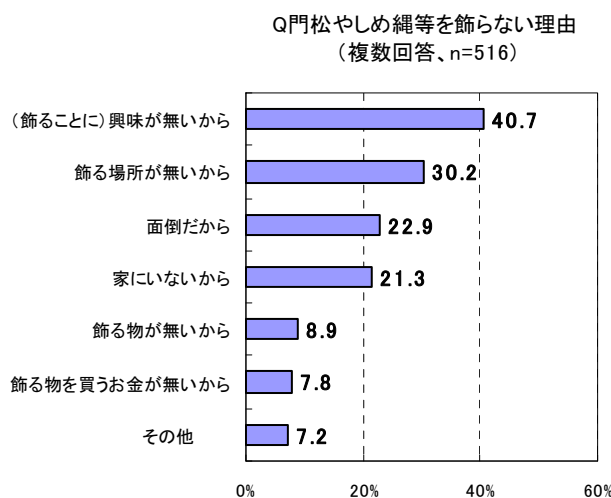
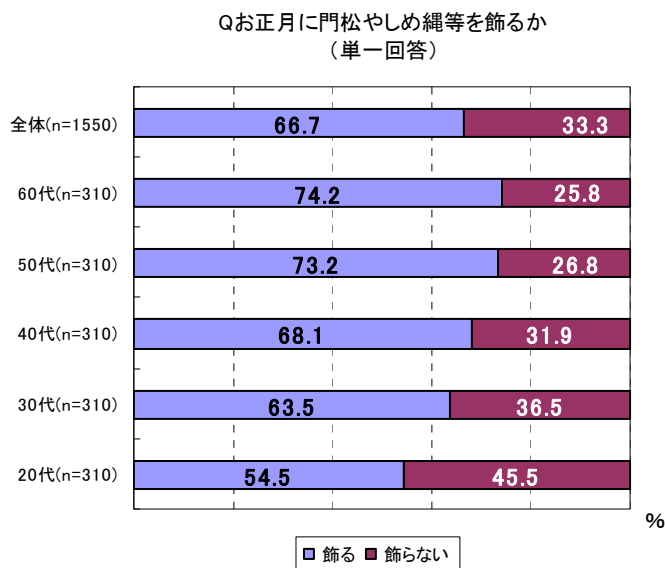
●正月飾りに興味無し!? 若い世代ほど薄れるお正月行事への関心

「例年、お正月には玄関（門を含む）に門松やしめ縄等を飾るか？」との質問には、全体の7割弱（66.7%）が「飾る」と回答。「飾らない」は3割強（33.3%）だった。飾る人たちの割合を年代別に見てみたところ、60代では74.2%、50代では73.2%、40代では68.1%、30代では63.5%、20代では54.5%と年代に比例して割合もダウン。お正月の風習が風化し始めている様子が明らかになった。

また、居住形態別の内訳を見てみたところ、集合住宅に住む人たちのうち飾るのは5割強（53.5%）だが、一戸建てに住む人たちは8割弱（77.7%）が飾っており、住宅事情による違いが大きく現れた。

更に、玄関に門松やしめ縄等を「飾らない」と答えた人たちに対してその理由を聞いたところ、「（飾ることに）興味が無いから」40.7%が一番多く、「飾る場所が無いから」30.2%、「面倒だから」22.9%、「家にいないから」21.3%などが上位に登場。当世気質や昨今の住宅事情を象徴するような結果が浮かび上がった。

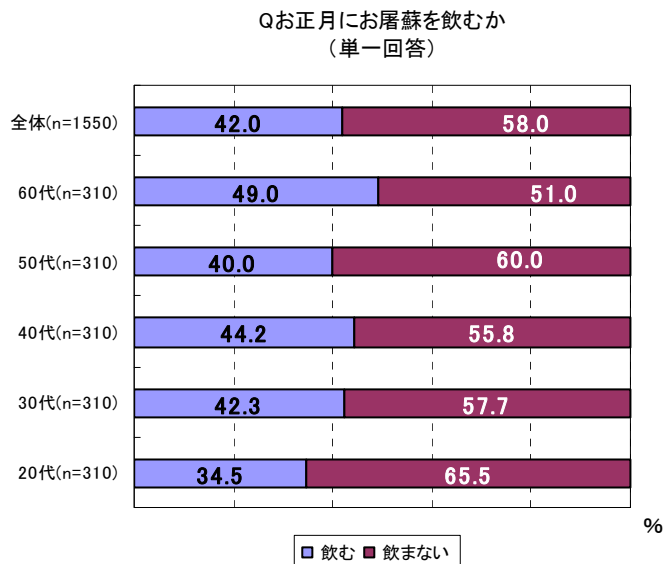
また、その他（7.2%）の理由としては、「住んでいる地域の方針に従うため（長野県）」、「マンションの規則で玄関に物を置いたり飾るのは禁止だから（大阪府）」、「以前は飾ったが、最



近は近所が殆ど飾らないから（千葉県）」などが記されていた。

●お正月に、お屠蘇も飲まない!?!—全体の約6割

「例年、お正月にはお屠蘇を飲みますか？」との質問には、「飲む」のは全体の約4割（42.0%）で、「飲まない」は約6割（58.0%）。飲まない人の方が多いという意外な事実が判明した。また、お屠蘇を飲む人たちの割合を年代別に調べたところ、最高は60代の49.0%で、最低は20代の34.5%。回答者が全員女性ということもあるだろうが、全ての年代で飲む人の割合が半数にも満たず、年始の儀式にも、風化現象が起き始めている様子が浮んだ。また、「例年、お正月にはお雑煮を食べますか？」との質問には、ほとんどの人（95.9%）が「食べる」と回答。「食べない」は約25人に1人の割合（4.1%）だった。



～お正月にまつわるエピソード～

- 高校生の時アルバイト先で食べたお雑煮が、自分の家と全く違っていただけなのに驚いた。祖父が京都生まれで、具の少ないあっさりとした物を食していたので、私はそれが雑煮だと思っていたが、新潟の雑煮は具沢山。あれから30年以上たち、嫁ぎ先も具沢山の雑煮を作りますが、母の作ってくれた雑煮が一番好きで、懐かしく感じる。(50才／新潟)
- 親戚一同が本家に集まり、正月を迎えるため本家に40人くらい集まる。未だに顔と名前が一致しない人がいる(28才／大阪)
- お正月は親戚がたくさん集まる。子供の頃はお年玉が楽しみだったが、現在は逆の立場で、不景気のせいもあり、出費がとても苦しい。(46才／宮城)
- 我家では必ず正月2日に家族全員で書初めをした。それぞれが今年の目標を筆に託し書いたが、その中で父だけは毎年同じで、禁煙の文字。毎年子供達に「マタ???」といわれていたことを思い出す。(62才／神奈川)
- 24歳のとき初めて大晦日に浅草まで行きお参りをし、その後、鎌倉へ初日の出を見に行っていたが、太陽が出る場所がわからず、さまよっているうちに日が高くなり、疲れて寒いお正月だった。それ以来、大晦日は家で過ごすことにしている。(40才／神奈川)

おせち料理の摂食と調理実態

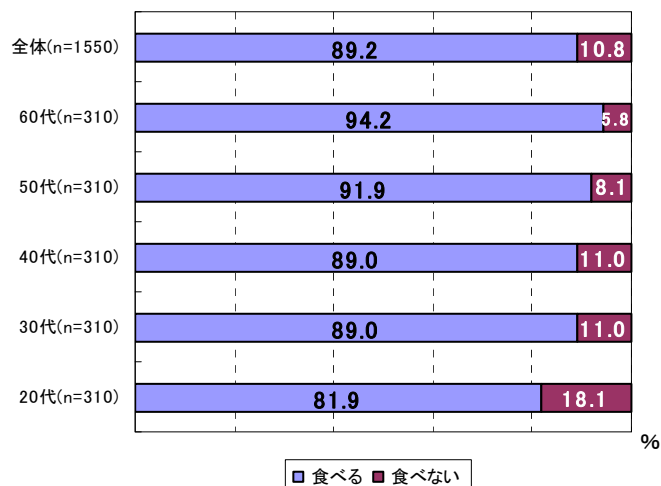
●おせち料理の摂食率～若い世代ほど低下

「例年、お正月にはおせち料理を食べますか？」との質問には、全体の9割弱（89.2%）が「食べる」と回答。「食べない」は1割強（10.8%）だった。

食べる人たちの割合を年代別に分析してみたところ、60代では94.2%、50代では91.9%、40代と30代はともに89.0%、20代では81.9%と年代に比例して摂食率も低下。お正月の風習の象徴であるおせち料理の将来が、少々気になる結果となった。

また、おせち料理を「食べる」と回答した人たちに対して、何日間食べるか尋ねたところ、「3日間」43.5%が一番多く、二番目は「2日間」34.5%、三番目は「1日だけ」15.3%、以下「5日間以上」3.8%、「4日間」2.9%の順だった

Qお正月におせち料理を食べるか
(単一回答)

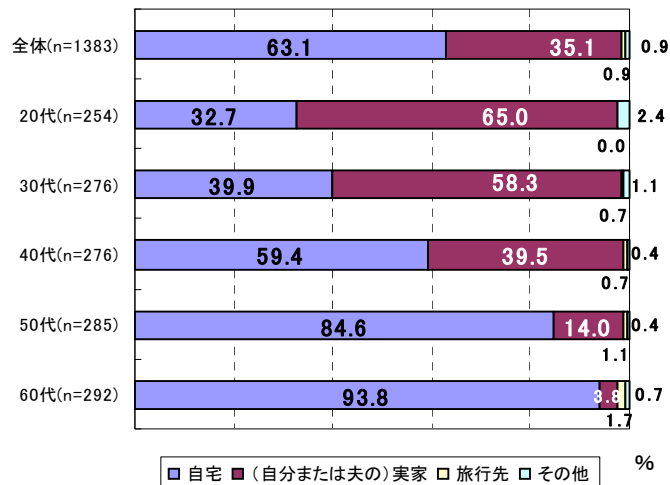


●おせち料理を食べる場所～若手は実家、シニアは自宅

おせち料理を「食べる」と回答した人たちに対して、どこで食べるかを訊いたところ、「自宅」が全体の6割強（63.1%）を占め、「（自分または夫の）実家」は4割弱（35.1%）。「旅行先」という人が12人（0.9%）いた。その他（0.9%）の中には「レストラン」や「別荘」といったリッチ？な場所もあった。

おせち料理を食べる場所について年代別に調べてみたところ、20～30

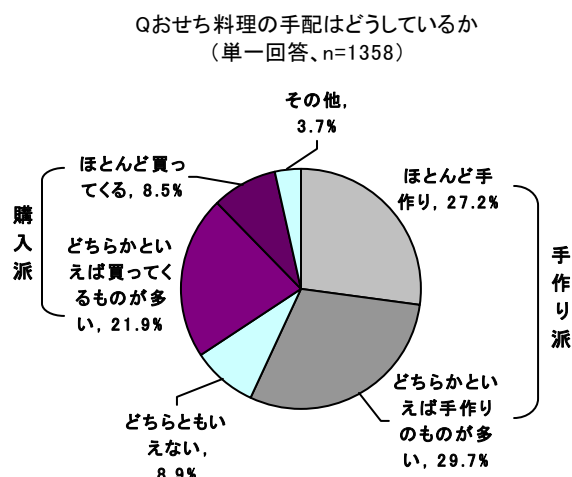
Qおせち料理を食べる場所
(単一回答)



代は「(自分または夫の) 実家」(20代 65.0%/30代 58.3%) をトップに挙げたが、40代以上は「自宅」(40代 59.4%/50代 84.6%/60代 93.8%) がトップ。特にシニア世代の自宅での割合は高く、前出の(実家に) 帰省する20~30代を50代以上が迎えて、おせち料理を食べるという構図が裏付けられる結果となった。

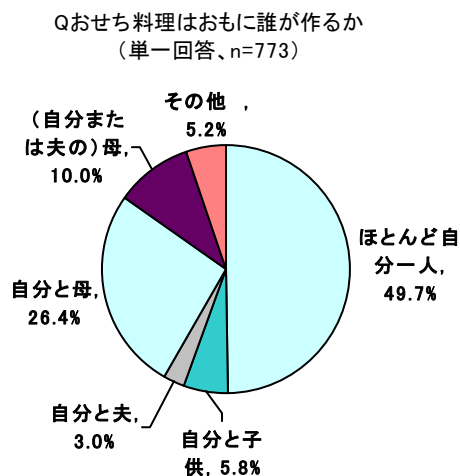
●おせち料理～手作り派は約6割、購入派は約3割

おせち料理を「自宅」または「(自分または夫の) 実家」で食べるという人たちに対して、料理の手配をどうしているか訊いたところ、「ほとんど手作り」27.2%と「どちらかといえば手作りのものが多い」29.7%を合わせると、約6割(56.9%)が手作り派であることが分かった。一方、「どちらかといえば買ってくるものが多い」21.9%と「ほとんど買ってくる」8.5%を合わせた購入派は約3割(30.4%)だった。その他(3.7%)の中には「実家からもらう」や「友人が手作りのものをくれる」といったケースもあった。



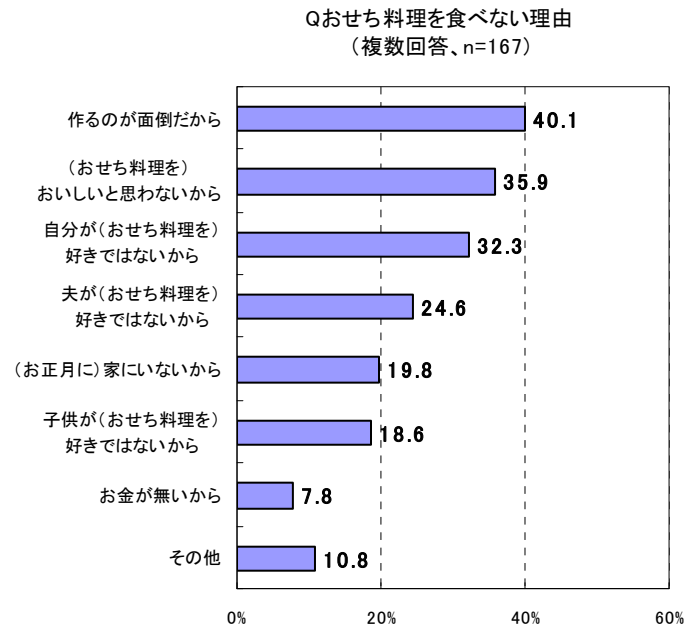
●手作り派の約半数が、「ほとんど自分一人」で作る

おせち料理の手作り派(前出)に誰が作るかを尋ねたところ、「ほとんど自分一人」49.7%が圧倒的に多く、以下、「自分と母」26.4%、「(自分または夫の)母」10.0%、「自分と子供」5.8%、「自分と夫」3.0%と続いた。その他(5.2%)の中では「夫と実母」、「父母」、「義母と義父」など、男性がらみの作り手が目についた。



●おせち料理を食べない理由～「作るのが面倒」「おいしいと思わない」

おせち料理を「食べない」と回答した人たちに対して、その理由を訊いたところ、「作るのが面倒だから」40.1%という理由が一番多く、二番目は「(おせち料理を)おいしいと思わないから」35.9%、三番目は「自分が(おせち料理を)好きではないから」32.3%、以下「夫が(おせち料理を)好きではないから」24.6%、「(お正月に)家にいないから」19.8%「子供が(おせち料理を)好きではないから」18.6%、「お金が無いから」7.8%などの順だった。その他(10.8%)の中には「地元におせちを食べる習慣がないから(沖縄)」や「年越しに作って食べちゃうから(北海道)」のように地域性がにじむものや、「夫が仕事なので」のように厳しい時代を反映したものもあった。



～おせち料理にまつわるエピソード～

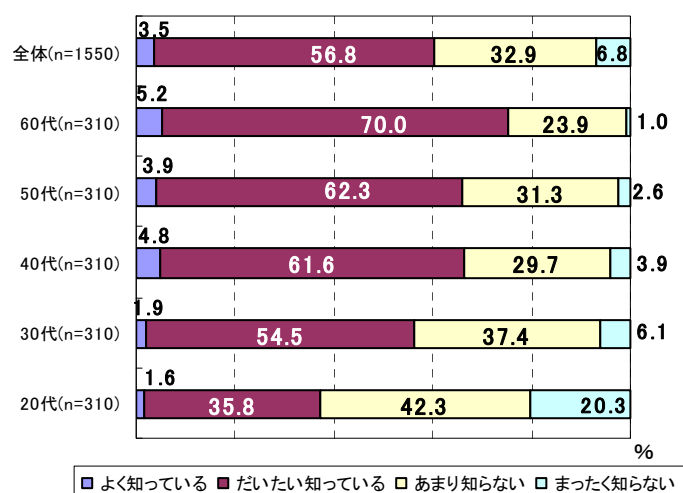
- 結婚して初めて「くわい」を料理したとき、くわいの芽を切って丸坊主に剥いたので、婚家の人々が愕然としていた。(63歳/兵庫)
- 義父が、こだわる人なのでほとんどを義母が手作りしているが、買ったものも毎年増えている、それを食べても義母の手作りと思ってしまうことがあり、義母と台所でほくそえむ事がある。50歳/神奈川)
- 栗きんとんの中の栗が大好きで、母にかくれて1個だけ、あと1個だけ……と思って食べていたら、きんとんだけになってしまって、母に大目玉をくらった。(30歳/宮崎)
- おせちの海老の縁起について、腰が曲がるまで長生きできますように、と話したら親戚の叔父が「海老は後に下がるからよくない！」と言い出してケンカになった。(27歳/大阪)
- 結婚して間もないころに自分でおせちを作っていたが、量が解らずにお節料理の材料だけで¥100,000ほど使った覚えが有る。それ以来、煮物以外は百貨店で頼むことにしている。その方が安く済む。(54才/大阪)

おせち料理の飲食等風習の伝承意識

●おせち料理の‘いわれ’～極端に低い20代の認知率

「おせち料理の個々の食べ物‘いわれ’を知っていますか？」との質問には、「だいたい知っている」56.8%が一番多く、「よく知っている」3.5%と合わせると、約6割（60.3%）がおせち料理の‘いわれ’を知っており、「あまり知らない」32.9%と「まったく知らない」6.8%を合わせて約4割（39.7%）が知らないということが分かった。

Qおせち料理の個々の食べ物の‘いわれ’を知っているか
(単一回答)



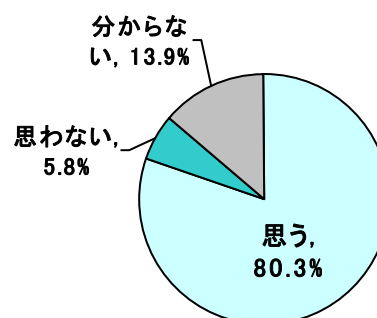
おせち料理の‘いわれ’を知っている人たちの割合を年代別に見てみたところ、60代では75.2%、50代では66.2%、40代では66.4%、30代では56.4%と各年代とも過半数が認知していたが、20代では37.4%。最も近い年代の30代とも19.0ポイントの差がつくなど、20代の極端に低い認知率が浮き彫りになった。

また、おせち料理のいわれを知っている人たちの割合を地域別に比較してみたところ、大半の地区で‘いわれ’を知っている人の方が多かったが、北海道（認知37.3%<62.7%非認知）、東北（48.6%<51.3%）、四国（42.9%<57.2%）の3地区では知らない人の方が多かった。

●全体の約8割が、おせち料理を食べる風習を伝えていきたい！

お屠蘇やお雑煮を含めて、おせち料理を食べる風習を伝承する意向があるかどうか尋ねたところ、伝えていきたいと「思う」人が全体の約8割（80.3%）を占めた。伝えていきたいと「思わない」人は5.8%で、「分からない」という人は13.9%だった。

Qおせち料理を食べる風習を伝えていきたいか
(単一回答、n=1550)



●伝えていきたい理由のトップは、「日本の伝統文化だから」

おせち料理の風習を伝えていきたいと思う人たちに、その理由を訊いたところ「日本の伝統文化だから」83.5%が最多。以下、「正月気分を味わえるから」61.7%、「家族や親戚とのコミュニケーションがとれるから」45.1%、「子供の情操教育にいいから」23.5%という結果となった。

一方、おせち料理の風習を伝えていきたいと思わないという人の理由は、「(自分が)おせち料理に興味が無いから」34.4%をトップに、「(自分が)おせち料理を好きではないから」28.9%、「子どもがおせち料理を好きではないから」27.8%、「食べ飽きるから」26.7%、「子どもがおせち料理に興味が無いから」21.1%の順だった。その他(17.8%)の中には「時代的におせちの意味がなくなった(64歳)」や「昔と違い、今はお正月でもやっている店が多いので、保存食になるおせち料理の必要性はなくなったと思う(47歳)」など、時代の変遷とともに風化しつつあるお正月の風習を容認する意見もあった。

Qおせち料理を食べる風習を伝えていきたい理由
(複数回答、n=1245)

